

令和3年度 学校評価のまとめ -福島市立清水中学校-

【評価点】 A：そう思う（4点） B：だいたいそう思う（3点） C：あまりそう思わない（2点） D：そう思わない（1点）で点数化
 【平均点】 A：3.25以上 B：2.5以上～3.25未満 C：1.75以上～2.5未満 D：1.75未満

実践 目標	教職員の自己評価項目と評価の観点・自己評価				外部評価		学校関係者 評価	具体的成果（○）、課題（●） ※改善策・要望等等		
	大	自己評価の項目	総合評価	小	自己評価の観点	評価		保護者	生徒	教職員自己評価の自由記述
学校運営の基本姿勢	1	教育目標「自立と共生～学び続ける生徒～」の達成に向けて、組織的に取り組んでいる。	A 3.55	1-1 「報告・連携・相談」の原則 1-2 チーム学校による取組	3.55 A 3.21 B	B	/	A	○活動が制限される中、実施可能な方法での運営 ○若い先生方の熱い情熱と柔軟な発想、やりきる力 ※コロナ禍を良機ととらえ、仕事を見直すべき。	○清水中生は応援したくなる子どもたち、これからは自我作古の精神で頑張ってもらいたい。
	2	清水中生としての誇りを胸に、将来の夢実現を目指し、諸活動に取り組ませている。	B 3.31	1-3 校務分掌の積極的推進 2-1 誇りをもった校歌斉唱 2-2 個に応じた進路指導の工夫	3.76 A 2.42 C 3.65 A	3.23	B	B	○各種会議の内容回覧による情報の共有化 ○教師間の連携、報告・連絡・相談ができています。 ○生徒一人ひとりに寄り添った指導ができた。	○評議員会から先生方の努力が感じられる。 ○各種行事が50%程度実践できたなら十分。地域活動なら30%できていればOK。
	3	保護者や地域から信頼、応援される学校づくりに努めている。	A 3.76	2-3 大会参加等代表としての自覚 3-1 不祥事防止の取組 3-2 早期発見、早期対応の姿勢	3.56 A 3.85 A 3.81 A	3.21	3.18	3.94	●ICTを各教科でどう活用していくか。 ●校歌歌唱の機会が減り、清水中生の意識が減少。 ●校務分掌の各担当が機能していない部分がある。	●合唱をクラス毎、または映像で見たかった。 ●学力と健康の2項目が学校の中心的任務。他は家庭や地域の学校外が関わらざるべき。学校は余計なことをやらされている。働き方改革の中でしっかり論議してほしい。
	4	常に教材研究と研修に努め、生徒に「分かる授業」を提供している。	A 3.42	3-3 保護者に寄り添う姿勢 4-1 教材研究の時間の確保 4-2 免許（担当）教科の授業の充実 4-3 各種研修への参加	3.62 A 3.27 A 3.65 A 3.35 A	3.19	/	A	●生徒と関わる仕事量や時間の設定が大事。 ●不登校生徒への対応が難しい。	
豊かな心を育成する	5	主体的な生き方を考えさせるために特別活動の充実に努めている。	A 3.32	5-1 リーダー育成と参画意識の向上 5-2 生徒会活動、学級会活動の充実 5-3 問題解決能力の育成	3.38 A 3.46 A 3.12 B	A	A	A	○自己有用感を与える機会はたくさんある。 ○道徳ローテーション授業が本校の新しい伝統として定着。 ○生徒会活動、委員会活動等の充実、リーダー育成	○コロナ禍でもやるべきことをしっかり見つけて地道に取り組んでいた。生徒指導面でも素早く対応いただいた。
	6	自己の生き方を考えさせるために総合的な学習の時間を効果的に活用している。	B 3.10	6-1 自己の個性の理解 6-2 キャリア教育の実践 6-3 自己指導能力の育成	3.15 B 3.15 B 3.08 B	B	/	A	●キャリア教育が不十分 ※幼保小中連携で共通テーマで取り組むのが良い。	○子どもが体調を崩したときたくさんの先生方に励ましの言葉をいただき、感謝の思いでいっぱいである。
	7	自己肯定感を育てる生徒指導の充実に努めている。	A 3.36	7-1 互いに高め合う集団づくり 7-2 自己有用感を与える指導の工夫 7-3 SCを含めたチームでの対応	3.38 A 3.38 A 3.19 B	3.09	B	A	●生徒に役割を果たさせる指導が十分でない。 ●道徳の実践力があまり育っていない。 ●コロナ収束後の集団行動、集団活動の重点化	○来校時の生徒の元気なあいさつが清々しい。 ○近所の生徒がよくあいさつをしてくれる。
	8	自己の生き方について考えを深める道徳教育の推進に努めている。	A 3.53	8-1 考え、議論する道徳の授業 8-2 ローテーション授業への取組 8-3 評価のための資料の累積	3.52 A 3.72 A 3.48 A	3.11	2.85	3.81	●総合学習の3年間を見通したビジョンが不十分。 ●生徒の生活習慣、価値観や行動原理、保護者の考えをどう捉えていくかが課題。	●職業人に学ぶ機会が中止になって残念だった。 ●地域で、朝こちからあいさつしても返事が返ってこない時がある。もっとできると良い。
た確かな学力を育成する	9	ICTを積極的に活用した授業実践に努めている。	A 3.52	9-1 授業における視聴覚機器の活用 9-2 生徒のタブレットPCの利用 9-3 研修への参加	3.52 A 3.60 A 3.32 A	A	/	A	○3年のバラストアチバーの生徒が多くなった。 ○教師が積極的にタブレット端末を活用している。 ○生徒もiPadを積極的に使う機会が得られた。	○一人ひとりの興味・関心に寄り添って力を発揮できるような指導がなされている。
	10	思考力・判断力・表現力を育成するために授業を工夫している。	A 3.29	10-1 アクティブ・ラーニングの導入 10-2 深い学びに至るための工夫 10-3 生徒指導の機能を生かした授業	3.24 B 3.28 A 3.32 A	B	B	A	※生徒がいつでも使えるようにする ※iPadの有効な使い方を研修する機会を設ける。	○iPadを活用した授業をフリー参観等の機会などにやっていただきたい。
	11	基礎的・基本的な知識・技能の育成に努めている。	A 3.48	11-1 授業スタンダードの活用 11-2 基礎・基本の確実な定着 11-3 見通しや振り返りの時間の確保	3.32 A 3.60 A 3.48 A	3.17	2.90	3.69	●習熟度別の指導で日々教材研究に追われてきた。 ●自信をもって意見を述べ合える雰囲気づくり ●授業スタンダードや家庭学習スタンダードの活用	○我が子のスイッチがなかなか入らないが勉強する環境としては恵まれていると思う。
	12	主体的な学習態度や学習習慣を確立させるため粘り強い指導に努めている。	A 3.31	12-1 学習の約束事の徹底 12-2 家庭学習スタンダードの活用 12-3 自主学習ノートの質の向上	3.68 A 3.00 B 3.08 B	3.15	3.36	3.81	●学力が低い生徒の課題への取り組みせ方 ●各種検査の蓄積や活用が不十分。 ●学びを深める方法について理解が不足	※家庭での声がけを意識していく。 ○討論したり、プレゼンしたりする能力が求められる。早くコロナが収束して、積極的に意見交換できる場がつけられるようになってほしい。
身健やかで育かされた たくましく たましい に い 心	13	交通事故、学校事故、ネットトラブル等の未然防止のため、継続的な安全教育を推進している。	A 3.58	13-1 各種行事、訓練の充実 13-2 事故防止への日常的な働きかけ 13-3 情報モラル教育の推進	3.58 A 3.77 A 3.38 A	A	A	A	○歯科検診前の清潔検査歯の衛生チェックが効果的 ○保健委員を中心に消毒作業や換気など行われた。 ○生徒は清掃活動に集中して取り組んでいる。	○PTA活動でブルー清掃に参加し、保護者が力を合わせて先生方と一緒に力になれたことがうれしい。親としても思い出に残った。
	14	体育の授業や部活動を通して、体力・運動能力の向上に努めている。	A 3.50	14-1 計画的・効果的な指導の工夫 14-2 スポーツに親しむ心を培う授業 14-3 たくましい心身をはぐくむ部活	3.50 A 3.52 A 3.48 A	3.32	3.67	3.94	○コロナ対策をよくやっている。 ○登校、下校指導に多くの先生方が関わっている。 ○事故防止について注意喚起が徹底されている	○コロナ禍だったが、感染症対策をしっかりとっていただき、学校生活が安全に送ることができた。
	15	学校生活全般にわたり、コロナウイルス感染防止対策や健康教育の充実に努めている。	A 3.55	15-1 コロナウイルス感染防止対策 15-2 食に関する指導の推進 15-3 歯の健康に関する指導の充実	3.88 A 3.32 A 3.28 A	3.36	3.44	3.94	○部活動で県大会等で活躍、意欲的に練習 ●人数が少ない部の今後の対応が課題 ●感染予防対策として体力・運動能力の向上が必要	※先生方の時間も限られているので、部活動は諸経費が発生したとしても外部委託が良いと思う。
	16	美しく安全な学校環境づくりに努めている。	A 3.70	16-1 清掃活動の充実 16-2 管理区域の安全管理 16-3 管理区域の整理整頓	3.73 A 3.68 A 3.68 A	3.38	A	A	●中学校として統一した清掃の仕方指導が必要。 ●給食の残食が多い。 ※給食時間の5分延長	○子どもたちが主体となって、という形も想定されるが、成長過程なので指導者は必要。何にしても先生方の負担を減らし、学級、学校運営に力を注げる環境になってほしい。
学びの び た め 支 え る 環 境 づ く	17	幼保小中の効果的な接続に努め、情報等の共有を図っている。	B 3.00	17-1 授業や行事等での接続 17-2 地区連携推進協議会の充実 17-3 情報の発信と共有	2.92 B 2.71 B 2.96 B	B	/	B	○緊急メールは、必要に応じてすぐ配信できた。 ○PTA理事等、保護者の方と連携がとれた。	○ホームページが頻りに更新されるので楽しみ。 ○今後も子どもたちの活躍や普段の様子を発信してほしい。
	18	学校・家庭・地域（後援会等）の連携による教育活動が推進されている。	B 3.17	18-1 保護者と顔の見える連携 18-2 地域との連携（地域懇談会等） 18-3 PTA・後援会との連携協力	3.32 A 2.44 C 3.40 A	3.20	/	3.19	○ホームページの毎日更新され、学校の様子が保護者や地域の方に発信されている。毎日の給食も公開され保護者の安心にもつながっている。	○「しみずキッチン」などを通して、生徒と交流できる場が持てるようにコロナ収束を願う。
	19	各種たより（学年・保健・生徒指導等）、メール、ホームページ等で有効な情報を提供している。	A 3.69	19-1 各種たよりによる提供 19-2 ホームページによる情報発信 19-3 緊急メール配信の活用	3.71 A 3.52 A 3.67 A	3.14	B	A	○定期的発行の各学年だより ●緊急メールで生徒の活躍を伝えても良いのではないかなと思う。	●この2年間、学校外の行事で学校が関わったものが無かった。以前は地域別懇談会が年2回あり、お互いに生で話し合えた。大変残念。
	20	学校評価や学校評議員会により、学校教育に関する意見を集約し改善のために活用している。	A 3.44	20-1 学校評価の実施と分析 20-2 次年度の教育課程へ反映 20-3 学校評議員会の充実	3.64 A 3.46 A 3.04 B	3.44	3.13	3.94	●幼保小中連携や保護者との連携強化は難しかったが、これを機会に見直してもよいのでは。 ※共通のテーマで「キャリア教育」はどうだろうか。	●地域、学校との交流の場を是非再開したい。 ●40周年事業を機会として「40周年を語る地域との懇談会」などの取組もできないか。ただし振り返られないように注意。

